ひきじだい

令和６（2024）年３月２５日
弥生（３月）　春休み号
大和市立
引地台小学校
HIKIJIDAI ELEMENTARY SCHOOL

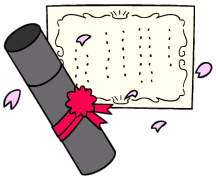
卒業式を終えて

校長　箱崎　勝美

芽吹きをもたらす春を迎える度に、「植物は、蓄積温度が満ちて発芽する」という言葉が浮かびます。厳しい寒さに耐えて、いよいよ開花の季節になりました。春は、変化の時期でもあり、節目の時でもあります。映画監督の故大林宣彦さんが、大切にしていた言葉は「ありがとう」「ごめんなさい」「さようなら」だそうです。「ありがとう」は、二人を出会わせてくれた運命と、ぼくに出会ってくれたあなたへの感謝。「ごめんなさい」はそのあなたにもらったものの大きさに対して、ぼくがあげることができなかった多くのことについての申し訳なさ。そして、最後には、礼儀正しく「さようなら」を言う。人は「ありがとう」の数だけ賢くなり、「ごめんなさい」の数だけ優しくなり、「さようなら」の数だけ愛を知るそうです。お別れの月に心の響く言葉です。

さて、３月１９日（火）、６年生が、卒業生として引地台小学校を巣立っていきました。緊張する中で、堂々と卒業証書を受け取る子供達の姿に感慨深いものを感じました。卒業生には、式辞として次のようなお話をしました。

> みなさんに、私から次のようなおすすめをしたいと思います。
>
> まず、「感謝の気持ちを忘れない」ということです。みなさんは、この６年間で、大きく成長しました。このように成長できたのはご家族や友達や先輩、地域の方々など、多くの人の励ましがあったからです。みなさんは、常に周りの人々との関わりの中で生かされていると言うことです。その支えてくださった方々に、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えてほしいと思います。
>
> 次に、皆さんは、どうして大和市が「大和」という名前になったのか、ご存じでしょうか。明治時代に、各村長さんたちが集まって会議を開き、一つの村になろうと話し合い、村名を決めることになりました。各村長さんたちが「自分の所の村名がいい。」と言って譲らず、２年にわたって争ったそうです。そのため、ある人が、厩戸王（うまやとおう）（聖徳太子）の「十七条の憲法」の中に「和を以って尊しとなす。」（「何事をやるにも みんなが仲良くやり、いさかいを起こさないのが良いと言うこと。」）とあるので、そこから、「大和」が良いのではという意見を出しました。各村長さんたちも「それがいい。」ということになり、村の名前は「大和村」と決まり、現在の大和市誕生となったそうです。みなさんも「和」を大切にして、周りの人と助け合いながら、歩んで行って欲しいと思います。
>
> 最後に、とんちで有名な一休さんが、弟子たちに残したといわれている言葉を紹介します。「大丈夫。心配するな。何とかなる。」まずは、失敗を恐れず挑戦してください。みなさんの１０年後、とても楽しみです。小学校でのうれしかったこと、楽しかったことを大切にして、未来へ羽ばたいてほしいと思います。

一年間を振り返ると、子供達は様々な経験を通して大きく成長しました。４月からは、一学年ずつ進級します。今まで身につけた力を活かして、新しい学年で、ぜひ活躍して欲しいと思います。

そして、引地台小学校の子供達を支えてくださった保護者の皆様、地域の皆様、本当に一年間ありがとうございました。教職員一同、心より感謝を申し上げます。次年度もよろしくお願いいたします。